

今年度の糸賀一雄記念賞および糸賀一雄記念未来賞の受賞者が決定しました。

公益財団法人糸賀一雄記念財団では、故糸賀一雄氏の思想や取り組みを新しい目で見直し、障害者やその家族が安心して生活できる福祉社会の実現に寄与することを目的として、障害福祉などの分野で顕著な活躍をされている個人・団体に「糸賀一雄記念賞」を、障害者または障害者と同様に社会的障壁による「生きづらさ」がある人に関する取り組みが先進的であり、今後の活躍が期待される個人・団体に「糸賀一雄記念未来賞」を授与しています。

以下のとおり、令和7年度の受賞者が決定し、授賞式を開催します。

1. 受賞者の決定について（詳細は別紙のとおり）

○第27回糸賀一雄記念賞

・福森 伸 氏

（鹿児島県鹿児島市：社会福祉法人太陽会 しょうぶ学園 統括施設長）

福森 順子 氏

（鹿児島県鹿児島市：社会福祉法人太陽会 しょうぶ学園 相談役）

○第11回糸賀一雄記念未来賞

・石川 恒 氏

（栃木県那須塩原市：社会福祉法人紫野の会 かりいほ 元施設長）

2. 授賞式の実施について

・開催日時：令和7年11月22日（土）午後2時から午後4時まで

・開催場所：ホテルニューオウミ あづちの間

（近江八幡市鷹飼町 1481）

・プログラム：13:30～14:00 受付

14:00～15:00 表彰式

15:00～16:00 受賞者記念スピーチ

※授賞式の模様を、後日配信する予定です。

詳細は、財団ホームページ(<http://www.itogazaidan.jp/>)にて、お知らせします。

第 27 回 糸 賀 一 雄 記 念 賞 受 賞 者 ・ 団 体 紹 介

福森 伸 氏・福森 順子 氏（鹿児島県鹿児島市）



■経歴

福森 伸 氏

1959 年 鹿児島県生まれ。

1983 年 両親が創業した障害者支援施設しょうぶ学園に勤務。

木材工芸デザインを独学し、「工房しょうぶ」を設立。

音パフォーマンス「otto&orabu」・家具プロジェクト・食空間コーディネートなど、「衣食住＋コミュニケーション」をコンセプトに、工芸・芸術・音楽等を新しい「SHOBU STYLE」として、知的障害者のさまざまな表現活動を通じて多岐にわたる社会とのコミュニケーション活動をプロデュースしている。

（現社会福祉法人太陽会 理事・統括施設長）

福森順子 氏

1955 年 東京都生まれ。

1991 年 しょうぶ学園に勤務。

1992 年 縫うことにこだわった「nui project」をプロデュース。

1999 年 デイサービスセンターDo しょうぶ 所長

2019 年 しょうぶ文化芸術支援センターアムアの森 館長

（現社会福祉法人太陽会 相談役）

■活動内容

- ・針一本で独特の刺繍の世界を作り上げる「nui project」や、民族楽器による音パフォーマンスグループ「otto&orabu」など、施設利用者の個性が光る表現活動を発信している。
- ・1985 年の「工房しょうぶ」、1999 年には在宅デイサービスセンター「Do しょうぶ」、2019 年にはアートホールを備えた子どもたちの支援施設「アムアの森」の開設など、地域福祉と地域貢献に力を入れている。
- ・福森夫妻は、健常者の価値観にとらわれず、それぞれが「生きる」という概念を尊重し、利用者の個性や興味を大切にすることを実践しており、ものづくりを通じ、障害者の可能性を引き出し、障害の有無、支援する側される側といった垣根を超えたコミュニティづくりがなされている。

幅の広いさまざまな創作・表現活動により、障害者それぞれの可能性を引き出す取り組みをされており、障害者が興味を持ち、楽しく活動していることを大切にすることを施設運営における理念とされている。こうした他の障害者支援施設の模範となる傑出した取り組みが評価され、また、今後一層の活躍が期待されるとして、糸賀一雄記念賞の受賞となりました。

第 11 回 糸賀 一雄 記念 未来 賞 受賞 者 ・ 団 体 紹 介

石川 恒 氏(栃木県那須塩原市)



■略歴

1982 年 日本社会事業大学卒業後、社会福祉法人紫野の会 障害者支援施設「かりいほ」に入職。

2000 年 「かりいほ」の施設長に就任、2019 年までの 19 年間、施設の舵取りを担う。

※「かりいほ」は、中軽度の知的障害者で、人間関係のトラブルや刑事事件に巻き込まれ、地域社会で暮らすことに生きにくさを抱えた人の社会的自立を支援する入所施設。

2016 年 一般社団法人生きにくさを抱えた障害者等の支援者ネットワークの代表理事に就任。

現在は、更生保護法人 尚徳有隣会 職員

■活動内容

- ・ 罪を犯した障害者など生きにくさを抱えた人たちの支援の先駆者として、「かりいほ」入所者の社会的自立支援の実践活動を牽引してきた。
- ・ 「かりいほ」での実践を踏まえた考察により、全国に設置されることとなる地域生活定着支援センターの枠組みづくりや、支援を担う人材育成のための研修の開催など、支援のための基盤づくりに尽力してきた。
- ・ 「かりいほ」施設長退任後も、栃木県内の更生保護施設で矯正施設等を出所した人の更生に向けた支援を現場で担っている。

司法に関わる知的障害者の問題にパイオニアとして取り組まれており、その取り組みは糸賀氏の心を受け継いだものとなっていることから、今後ますますの活躍が望まれるとして、糸賀一雄記念未来賞の受賞となりました。